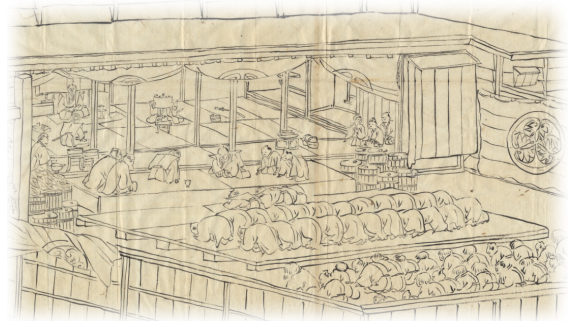


加賀家文書館 第11回特別展のお知らせ！(後期) 知られざる幕末会津藩北辺防衛の歴史

幕末の動乱期、蝦夷地と呼ばれた北海道は東北六藩による分割統治がはじまり、根室地方は西別(現在の本別海)を境に北側が会津藩領となった時代がありました。

「加賀家文書」を書き残した加賀伝蔵は、会津藩の蝦夷地警衛の拠点となったシベツ場所の支配人を勤めることとなります。そして、数少ないこの時代の資料を残し、赴任してきた会津藩士と深い関わりがあったことがわかりました。

今回の特別展は、蝦夷地に渡った会津藩に焦点をあてると共に、
「万延元庚申八月廿九日寒所領本川会所御武者之図」
そこで従来から暮らしていたアイヌ、場所請負人たちの動向を探り、幕末のこの地方の様子を紹介したいと思います。



会津藩士 一ノ瀬紀一郎 加賀家文書館蔵

■期 間 平成25年10月8日(火)～11月28日(木)

■場 所 別海町郷土資料館附属施設 加賀家文書館

ふるさと講座・歴史系第4回目のお知らせ！ 「オンネニクルの森を歩こう」

野付半島にあるオンネニクルの森へ足を運び、野付半島の自然、森に残された古代竪穴住居跡を探索しようと思います。

●日 時 平成25年10月19日(土)

午前10時～午後2時

●場 所 野付半島

(集合：野付半島ネイチャーセンター2階)

●ガイド 野付半島ネイチャーセンター

郷土資料館職員

●定 員 20名

●申込方法 電話にて氏名・電話番号を10月18日(金)までにご連絡ください。

●その他 気候が変化しやすい時期なので、防寒着、長靴を着用ください。

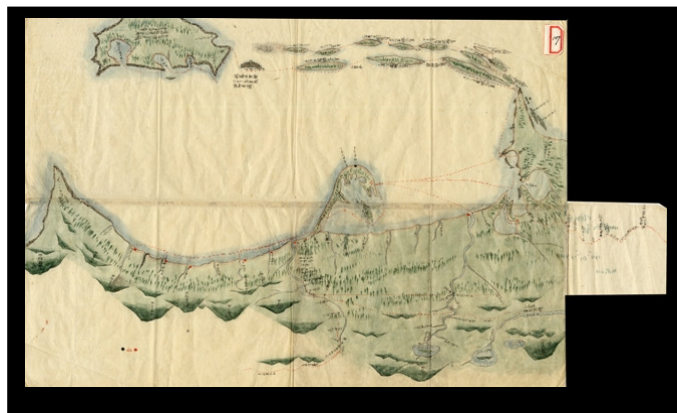
昼食は現地でするので、お弁当、飲物を持参ください。



根室場所の分割ーアイヌや場所請負人たちー

当時の根室場所は、現在の根室市に会所(場所請負人の経営拠点)を構え、根室管内と歯舞諸島、色丹島をその領域としていました。漁場ごとに大小複数の番屋が設けられ、会所の指示を受け、漁場経営やアイヌとの取引に当たりました。

場所請負人は、請負場所と日本市場との間の流通・交易に関する独占権益を藩や幕府により許可された商人でした。場所内には幕府や松前藩の勤番所が置かれ、幕吏もしくは藩士が常駐し会所や場所内の監督にあたっていました。



[子モロ場所之図] 加賀家文書館蔵

●文久元年(1861)の根室場所の運上金

・根室場所仙台藩領

厚岸境～根室～西別川境 八百両(別段金百十八両と永四百文)

・根室場所会津藩領

西別川 七百両(別段金百三両と永六百文)

西別川境～知床岬 千両

安政6年(1859)根室場所は、会津藩、仙台藩に分割統地されることになりました。分割する場合一般的には山や川を境にしますが、根室場所は、西別と走古丹の境、古川尻が境となりました。

長い間一つの場所として、生産活動や通行の継ぎ立てが行われていたことから、不安に思ったアイヌたちは不都合を申し立てました。根室場所アイヌの総意を通辞加賀伝蔵を仲立ちにして上申しています。

上申の内容は、今まで通り幕府の支配、そうでなければ、会津藩か仙台藩どちらかの藩による支配の願い。働き手が少ない現状で、分割により色々な仕事に引き出されると生活が苦しくなり村を支えることが出来なくなる。などのほか、別海の役アイヌはクナシリ・メナシの戦い(寛政元年(1789))の時、国後からの加担の知らせが来たが、別海・根室の先祖は和人へ味方し松前の殿様から褒美を貰い、以後根室の者たちとは親子同様に助け合い、協力せよと亡くなった先祖の遺言がある。など古い時代から結びつきが強い土地であると言う事を分割統治反対の理由として上げています。

嘉永2年(1849)以降の根室場所を請負っていたのは柏屋藤野喜兵衛でした。根室場所の分割統治にあたっては、漁業経営・アイヌ撫育・人馬継ぎ立てなどはこれまで通りとなり、会所の支配人・通訳・番人などは会津藩の標津場所、仙台藩の根室場所の両場所を兼務することとなりました。また、両藩に各々の場所の引渡書類の作成や御用取扱の願い出を書付をもって提出しています。

別海町郷土資料館だより No.171

発行日 平成25年10月1日

発行所 別海町郷土資料館

別海町別海宮舞町30番地

電話 0153-75-0802 (FAX 兼)

e-mail kyoudo@betsukai.jp

編集後記

加賀家文書館特別展の後期分が8日からはじまります。ぜひ、ご覧下さい。急に秋めいてきました。気温も下がり、体調管理に気を使いますが、秋ならではの楽しみ方もあります。オンニクルの森の探索も綺麗な木々や水の青さを実感できる良い機会です。(担当 KI)